



東京海上日動リスクコンサルティング（株）
ERM 事業部長 茂木 寿

最近の国際テロ動向と今後の展開 ～2008 年テロ動向分析を基にした今後の国際テロ動向予測～ (第 2 部)

本編は、弊社が契約企業に対し不定期で情報提供している「海外安全レポート」として 2009 年 2 月 3 日作成「最近の国際テロ動向と今後の展開～2008 年テロ動向分析を基にした今後の国際テロ動向予測（第 2 部）」から抜粋したものである。

※ 「海外安全レポート」は弊社の「海外危機管理情報提供サービス」に基づき、不定期に提供しているもので、2008 年の実績で約 46 編のレポートを提供している。

参照 URL : <http://www.tokiorisk.co.jp/consulting/overseas/member.html>

また、本編は、財団法人 日本国際問題研究所（JIIA）の「所外活動」にも掲載されている。

参考 URL : http://www2.jiia.or.jp/extpub/index_extpub.php

第 1 部は 2008 年の大規模テロ事件の分析結果を基に、最近のテロ動向（概要）について、まとめた。この第 2 部では、昨今におけるテロの多様化（手法・形態・使用武器等）について、まとめている。

1. テロ手法の多様化

下記図表（図表 1～4）は、2002 年以降の大規模テロ事件の手法別分類・使用武器別分類・標的別分類及び 2008 年の大規模テロ事件の国別分類をまとめたものである。これらの図表からは、昨今におけるテロ手法の多様化を見ることが出来る。

【図表 1：大規模テロ事件の手法別分類（2002 年 1 月 1 日～2008 年 12 月 31 日）】

年	爆発物使用	襲撃 待ち伏せ	占拠	その他 (含：複合型)
2002 年	24	6	1	3
2003 年	41	17	0	4
2004 年	84	37	1	23
2005 年	144	54	2	13

年	爆発物使用	襲撃 待ち伏せ	占拠	その他 (含：複合型)
2006 年	161	68	1	26
2007 年	202	94	1	23
2008 年	147	23	0	5

出典：弊社作成資料に基づく

【図表 2：大規模テロ事件の使用武器別分類（2002 年 1 月 1 日～2008 年 12 月 31 日）】

年	爆発物 (自爆)	爆発物 (設置型)	爆発物 (その他*)	銃・ライフル 機関銃等	その他 (含：複合型)
2002 年	12	11	1	6	4
2003 年	22	18	1	18	3
2004 年	34	45	7	42	17
2005 年	87	54	3	56	13
2006 年	82	72	7	73	22
2007 年	112	88	4	95	21
2008 年	95	53	2	22	3

出典：弊社作成資料に基づく

注：* 地雷・手榴弾等

【図表 3：大規模テロ事件の標的別分類（2002 年 1 月 1 日～2008 年 12 月 31 日）】

年	政府機関 警察施設 軍事施設	国際機関 外国公館	宗教施設	交通機関	学校 病院	ホテル	その他 一般地区*
2002 年	5	1	2	6	0	3	14
2003 年	16	10	3	8	1	1	23
2004 年	67	14	10	11	3	3	37
2005 年	112	3	16	12	6	3	61
2006 年	96	3	18	24	1	0	114
2007 年	150	2	15	25	3	3	122
2008 年	76	2	16	12	5	2	62

出典：弊社作成資料に基づく

注：＊ 市場・住宅地等、一般市民が数多くいる場所

【図表 4：2008 年大規模テロ事件の内訳】

国名	大規模テロ 事件数	爆発物を 使用したテロ (内数)	自爆テロ 事件数 (内数)	=参考= 自爆件数	
				2006 年	2007 年
イラク	78	72	49	63	75
パキスタン	30	28	21	2	19
アフガニスタン	24	15	13	10	11
スリランカ	13	12	6	5	1
インド	8	5			
ソマリア	5	3	1		
アルジェリア	3	3	1		4
中国	3	1			
ロシア	2	1	1		
イエメン	2	2	2		1
トルコ	1	1			1
イスラエル	0			1	
エジプト	0			1	
ナイジェリア	1	1	1		
その他	5	3			
合計	175	147	95	82	112

出典：弊社作成資料に基づく

注：赤字で暗転している国は 2006 年以降に大規模自爆テロ事件が発生した国を示している。

2. 形態の多様化

図表 1 から分かる通り、大規模テロ事件のうち、大部分が爆発物を使用したテロ事件であることが分かる。特に、2008 年においては、175 件のうち、147 件（84.00%）を占めており、その比率が大幅に増加していることが特徴として挙げられる。一方、テロ形態自体は、世界的に多様化しており、下記のような形態のテロ（特徴的なテロ事件）が 2008 年には、発生している。

① 襲撃事件

- 2008 年 2 月 15 日：インド東部オリッサ（Orissa）州でインド共産党マオイスト派（CPI-Maoist : Communist Party of India (Maoist)）のメンバー約 400 人が警察署 4 ヶ所、訓練所 1 ヶ所、武器庫 1 ヶ所を襲撃し、警官 12 人と民間人 1 人を殺害、少なくとも 1,000 丁のピストルを強奪。
- 2008 年 7 月 9 日：トルコ・イスタンブール（Istanbul）で武装グループが米国総領事館前の警察官詰め所を襲撃し、警備に当たっていた警察官との間で銃撃戦になり、警察官 3 人・武装グループ 3 人の計 6 人が死亡。
- 2008 年 9 月 17 日：イエメン・サヌア（Sanna）で爆弾を積んだ 2 台の車両が米大使館の正面玄関に突入を試み、それぞれ爆発し、その後武装グループと警備部隊の銃撃戦に発展し、警備員 6 人、武装グループ 6 人及び巻き込まれた民間人 4 人が死亡、16 人が負傷。（上記 2008 年 7 月 9 日のトルコにおける襲撃事件とこの事件には類似性が高く、今後同様のテロ事件が発生することが懸念される）
- 2008 年 12 月 25 日：コンゴ民主共和国（Democratic Republic of the Congo : 旧ザイール）のスーダン国境に近い高ウエレ州（Haut-Uele）ファラジェ（Faradje）等にある 3 つの村を神の抵抗軍（LRA : Lord's Resistance Army : ウガンダの反政府組織でキリスト教原理主義テロ組織）が襲撃し、村人等 485 人を虐殺。
- 2008 年 12 月 7 日：パキスタン・ペシャワール（Peshawar）近郊でタリバーン（Taliban）が物資輸送ターミナルを襲撃し、アフガニスタン駐留米軍・NATO 軍向け物資を積んだトラック約 100 台に放火。（パキスタン・アフガニスタンでは 2008 年後半以降、物資輸送用のトラック等への襲撃が頻発している）

②誘い込みによるテロ

- イラク：身元不明の遺体があるとの通報を受けた警官が現場に駆けつけたところで爆弾が爆発した事件、手製爆弾が爆発し、爆発現場に米軍が到着するのを待って自爆犯が自爆した事件の他、シーア（Shia）派モスク前で持ち物検査を受けていた少年が自爆し、更に近くにいたもう一人も自爆した事件等が発生している。また、米軍のパトロール車両を狙って遺体に隠した爆弾が爆発した事件の他、自動車爆弾が 2 回連続して爆発し、更に現場に人が集まったところで群衆の中にいた自爆犯が自爆した事件等も発生している。（イラクでは昨今、このような多くの人を集めた上での誘い込みによるテロ事件が頻発している）
- 2008 年 7 月 27 日：トルコ・イスタンブール市西部のギュンギョレン区（Güngören）の繁華街のゴミ箱に仕掛けられた爆弾が爆発し、更にその 5～10 分後、約 50m 離れたゴミ箱に仕掛けられた別の爆弾が爆発し、17 人が死亡、150 人以上が負傷。
- 2008 年 10 月 8 日：アルジェリア・アルジェ（Algiers）南東約 250km の M'sila で事件 2 日前にイスラム過激派に誘拐された男性の遺体の下に隠してあった爆弾が爆発し、兵士 1 人が死亡。
- 2008 年 12 月 17 日：ロシア・ダゲスタン共和国（Republic of Dagestan）の Khasavyurt で道路脇に仕掛けられた爆弾が爆発し、警察官 1 人が負傷、警察車両 1 台が大破した。その 30 分後、警察が現場に駆けつけたところで 2 回目の爆発があり、警察官 5 人が負傷、警察車両 1 台が大破。

- 2008 年 12 月 30 日：タイ南部ヤラー県（Yala Province）Tambon Balor で線路上にガス・タンクが置かれているのが見つかり、爆発処理班が出動した。調べた結果、タンクは空だとわかったが、このタンク近くに仕掛けられていた爆弾が爆発し、パトロール中だった兵士 7 人が負傷。

③ 航空機・ブルドーザー等を利用したテロ

- 2008 年 10 月 28 日：現地時間午後 10 時 20 分頃、スリランカ北部州（Northern Province）マナー県（Mannar district）のタラディ（Thallaadi）陸軍キャンプにタミール・イーラム解放の虎（LTTE：Liberation Tigers of Tamil Eelam）の小型機が爆弾 2 発を投下した。この攻撃で兵士 1 人が負傷した。また、現地時間同日午後 11 時 20 分頃、LTTE の小型機がコロンボ市内のケラニテッサ（Kelanitissa）発電所（コロンボ市中心から東約 5km）にも 2 発の爆弾を投下した。この同発電所に対する空爆で、施設の一部が破壊された他、同地域で火災が発生し、職員 1 人が死亡した。政府当局はこれに先立ち、不審な航空機がコロンボ上空を飛行しているとして、警戒措置として電力供給が一時停止され、港・大統領官邸を含む高警戒地域に防空体制が敷かれ、政府軍による対空射撃が断続的に行われた。また、バンダラナイケ国際空港（Bandaranaike International Airport）での航空機の発着も軍事作戦中であることを理由に一時停止された。（LTTE はこれまでも数多くの小型機による爆撃を行っている。なお、テロ組織が航空機により爆撃を行うケースは LTTE 以外ではほとんどない）
- 2008 年 7 月 2 日：イスラエル・エルサレム（Jerusalem）中心部の目抜き通りで東エルサレム在住のパレスチナ人建設作業員の男が付近の路面電車建設現場からブルドーザーを持ち出し、アームを使って路線バス等の通行車両を次々に破壊。（自動車の運転手・バス乗客ら少なくとも 4 人が死亡、30 人以上が負傷）男は現場に駆け付けた警察官らによって射殺された。
- 2008 年 7 月 22 日：イスラエル・エルサレム中心部で東エルサレム在住のパレスチナ人が運転するブルドーザーが、バス・自動車数台に向けて突入し、少なくとも 18 人が負傷。実行犯は現場に駆け付けた警察官らによって射殺された。（上記 2 件のテロにおいては、ブルドーザーが使用されているが、過去にブルドーザーがテロに使用されたケースはほとんどない）

3. 自爆テロの多様化

2008 年に発生した大規模テロ事件のうち、自爆テロによるテロ事件は 95 件となり、大規模テロ事件の半分以上を占めている。2007 年に比べ、大規模テロ事件は大幅に件数が減少しているが、自爆テロ事件の発生件数はそれ程減少していない。（112 件⇒95 件）そのため、昨今の不特定多数を標的とした大規模テロ事件において、自爆テロ事件が、以前にも増して主流となって来ている。また、図表 4 から分かる通り、自爆テロ事件が発生した国数は、2006 年 6 ケ国、2007 年 7 ケ国であったのに対し、2008 年には 9 ケ国に達している。この

ことは、自爆テロ事件が、世界的にも、以前にも増して主流となって来ていることを物語っている。特に、イラク・パキスタン・アフガニスタン等において自爆テロ事件が頻発していると同時に、極めて多様化しているのが特徴である。(下記参照)

①イラク

- 葬儀中の自爆
- 病院前での自爆
- 学校前で生徒登校時間時に自爆
- 知的障害を持つ女性の体に巻き付けられた爆弾を遠隔操作で爆破
- 家電製品店で女が自爆
- 道路脇に仕掛けられた爆弾が爆発（更に現場に治安部隊等が集まったところを狙って男が自爆・警察パトロール隊を狙って女が自爆）
- 警察官の葬儀会場で男が参列者の中で自爆
- 葬儀会場で爆弾を装着した人物が葬儀の参列者の中で自爆
- 結婚式参列者への連続自爆
- 通夜の会場で男が参列者の前で自爆
- スンニー（Sunnī）派民兵事務所前で女が自爆
- 徴兵センターで軍人の制服を着た自爆犯が自爆
- 女が政府建物の前で自爆
- 市場で女が自爆
- 軍の入隊希望者を狙った連続自爆テロ（2人の自爆犯・1人は軍の制服）
- 覚醒評議会のメンバーに女が徒歩で近づき自爆
- 警察署近くで自爆ベストを着た女が自爆
- 爆弾を身につけた女装をした男が自転車で検問所に近づき自爆
- 米軍の管理する収容施設キャンプ・ブッカ（Camp Bucca）で1年間拘束され前日釈放されたばかりの警察官の自宅で親戚・友人が集まってラマダンの断食明けの宴会が行われ、人々が帰り支度をしていたところに女が入り込み自爆
- 裁判所近くで女性が自爆
- 検問所で女が自爆
- 病院入口で女が自爆 等

②パキスタン

- モスク内での10代少年による自爆
- テロで犠牲になった警察幹部の葬儀の最中に自爆
- 地元部族長会議場で10代少年が自爆
- 在パキスタン・デンマーク大使館駐車場近くで乗用車を使った自爆テロ
- 公立病院前で自爆テロ
- 兵器工場で連続自爆テロ（2ヶ所ある門に徒歩で近づいたとみられる男が相次いで自爆）

③アフガニスタン

- ホテル内の自爆
- 闘犬会場で自爆テロ
- 米軍基地前で自動車による自爆テロ（爆発物を積んだ車が米軍基地の門に突っ込もうとしたが障壁に阻まれて自爆）
- 警官の制服を着た自爆犯人が政府建物入口で自爆
- 高校近くの路上で自爆テロ（試験結果の確認に来ていた高校生ら未成年者 14 人を含む 16 人が死亡・50 人以上が負傷）

④スリランカ

- 駅で女性が自爆
- LTTE の船舶が警備艇に対して自爆テロ
- シンハラ（Sinhala）及びタミル（Tamil）の新年を祝うマラソン大会の出発式会場を狙った自爆テロ
- 海軍貨物船へのダイバーによる自爆テロ

⑤その他

- ロシア：女性の自爆犯が乗り合いバスで自爆
- 中国：昆明市のカフェで自爆テロ

- テロの被害の面から見た場合、被害が大きいテロ程、自爆テロの比率が高くなっている。このことは、自爆テロが防止する側にとっては、その防止が極めて困難（被害を最大限にする場所・時間を自爆犯自ら判断・実行するため）であると共に、不特定多数を巻き添えにすることにより、被害が拡大する傾向があることを物語っている。また、同時多発的・誘い込み等の手法を組み合わせた場合には、更に被害を拡大させることも可能となることから、自爆テロは極めて殺傷率・成功率の高いテロであると言える。
- 上記から分かる通り、イラク・パキスタン・アフガニスタンにおいては、女性・女装・少年・制服着用・障害者に爆発物を身につけさせ遠隔操作による爆発（間接的自爆）等による自爆テロ事件が頻発しており、自爆テロがこれら 3 ヶ国を中心に極めて多様化していることが分かる。
- また、発生場所も政府機関等の公的機関施設をはじめとして、不特定多数が集まる場所、公共交通機関、更には、学校・病院・葬儀・結婚式・宴会・ホテル・マラソン大会・闘犬場等にまで及んでいる。
- 更に、スリランカでは従来から発生している船舶による自爆テロの他、ダイバーによる自爆テロが発生している。
- 自爆テロ事件の実行組織は、歴史的に見た場合でも、イスラム原理主義テロ組織・チェチェン系テロ組織・LTTE・クルド（Kurds）系テロ組織等によるものに限定される。（言い換えれば、自爆テロが発生した場合には、これらの組織による犯行であると見ることが出来る）
- このうち、チェチェン系テロ組織・LTTE・クルド系テロ組織では、政府軍との戦闘等に

より死亡した兵士の寡婦を中心として、**女性による自爆テロ***を多用している。特に、スリランカの LTTE は長年、**女性による自爆テロ**を数多く実行しており、**その比率が格段に高い**のが特徴である。

注：* 歴史的に女性による自爆テロ事件を実行したことが確認されているテロ組織は全世界で見ても以下の 9 つを数えるのみである。

- シリア社会民族主義党 (Syrian Social Nationalist Party : 1985 年 4 月 9 日に南レバノンにおいて世界で初めて女性による自爆テロ事件が発生しイスラエル兵 2 人が死亡)
- チェチェン系テロ組織
- タミル・イーラム解放の虎 (LTTE : Liberation Tigers of Tamil Eelam)
- アル・アクサ殉教者旅団 (Al-Aqsa Martyrs Brigade : パレスチナ)
- パレスチナ・イスラム・ジハード (PIJ : Palestinian Islamic Jihad : パレスチナ)
- ハマス (イスラム抵抗運動 : HAMAS : Islamic Resistance Movement : パレスチナ)
- Al-Qaida 等のイスラム原理主義テロ組織 (タリバーン・イラクの反米テロ組織等)
- クルド労働者党 (PKK : トルコ)
- 革命人民解放党戦線 (DHKP-C : トルコ)

4. 使用武器の多様化

図表 2 は使用武器別の分類であるが、テロに使用される武器も多様化が進展している。特に、イラク・アフガニスタン・パキスタン等では各種武器が使用されており、テロ組織の武器の展示場の様相を呈している。

① 重火器

特に、イラク・アフガニスタン等においては、下記のような武器が使用されている。

- 迫撃砲 (Mortar)
- 擲弾筒 (Grenade Launcher)
- ロケット砲 (Rocket Artillery)
- 簡易爆弾 (IED : Improvised Explosive Device)
- 車両爆弾 (VBIED : Vehicle-Borne Improvised Explosive Device) 等

② 爆薬

爆発物に使用される爆薬も多様化しており、インド等を中心に、下記のような爆薬も使用されている。

- ペンスリット (PETN)
- ニペリット
- コンポジション A・コンポジション C (C4)
- TNT
- ヘキソーゲン (RDX)
- トーペックス (Torpex)

- オクトーゲン (HMX)
- 過酸化アセトン (TATP)
- 含水爆薬 (Neo Gel-90) 等

③その他

上記以外では 2008 年には、下記のような武器も使用されている。

- パキスタン：圧力鍋に入れられた爆弾
- タイ：携帯電話で起爆する爆弾
- ハンガリー：区長に白い粉を送致
- ベネズエラ：パンフレット等をばらまく装置型爆発物
- スリランカ：クレイモア爆弾（設置型の対人小型爆弾）による民営バス爆破
- スリランカ：C4 爆発物 500g を運んでいた女逮捕（爆弾は鞆の底に隠されていた）
- トルコ：銀行前で音響爆弾が爆発
- ロシア：手製爆弾（硝酸ナトリウムとアルミニウム粉末が入った 200g 入りコーヒー缶 2 本に目覚まし時計がセロテープでつけられていた）
- チリ：スーパー前で音響爆弾 2 個が爆発

- 上記から分かる通り、イラク・パキスタン・アフガニスタン・インド等を中心に使用される武器も多様化が進展しており、今後、更に大量殺戮型・大量破壊兵器型の武器が使用されることが懸念される。

5. 標的の多様化（ソフトターゲット化）

図表 3 は、標的別の分類であるが、標的も多様化が大幅に進展している。特に、大規模テロの標的としては、民間人等のソフトターゲット（狙いやすい標的）を無差別に狙うものが、2004 年以降一貫して増加している傾向にある。特に標的の面では、最近において下記のような特徴が見られる。

- 既往の自爆テロの多様化からも分かる通り、1990 年代までほとんど標的とはならなかった病院・学校等も標的となっている。また、国連等の国際機関・NGO・NPO 関連施設についても、1990 年代までほとんど標的となっていなかったが、2003 年以降、増加傾向となっている。
- 既往の通り、歴史的にテロ事件ではほとんど標的とならなかった結婚式・葬式等も標的となっている。更に、レストラン・ショッピングセンター・市場・映画館といった不特定多数の人が集まる施設での無差別・大量殺戮を目的としてテロが頻発している。特に、イラクにおいては、2005 年 5 月以降、レストラン・市場等での無差別テロ事件が頻発している。
- 宗教施設における一般信者を標的にしたテロも増加している。（モスク・キリスト教会・巡礼者・聖廟等を中心に 2005 年～2008 年に 65 件発生しており、年々増加する傾向にある）

- 下記パキスタンにおける標的から分かる通り、イスラム原理主義に基づき、**CD 店・ビデオ店・携帯電話店・ネットカフェ・コンピューター店・映画館・理髪店・婦人服等を扱う市場・女子学校等**へのテロが頻発している。特に、パキスタンでは 2008 年だけで女子学校 100 校以上が標的となっていることから分かる通り、**女子の社会進出に資する施設等が標的**となることが多いのが特徴として挙げられる。
- テロの標的として、最近特に顕在化しているのが、公共交通機関に対する無差別テロ事件である。既述の通り航空機に関するテロは激減しているが、被害規模が拡大する傾向にある**バス・鉄道等**での爆破テロ事件が増加しており、2005 年～2008 年において、**船舶・路線バス・地下鉄・民間航空機・地下鉄駅等**で 73 件発生しており、年々増加する傾向にある。
- この標的の多様化においては、特に、パキスタン・イラク・アフガニスタン・インドが特筆される。

① パキスタン

- **CD 店・ビデオ店**
 - **携帯電話店**
 - **ネットカフェ・コンピューター店**
 - **映画館**
 - **理髪店**
 - **婦人服等を扱う市場**
 - **結婚式の参列客を乗せた車**
 - **イタリア料理店で爆弾テロ**
 - **女子学校の爆破・放火等（パキスタンでは 2008 年だけで女子学校 100 校以上が標的となっている）**
 - **女子学校以外の学校（大学・高校等）**
 - **刑務所及び刑務所の護送車**
 - **スクールバスが遠隔操作の爆弾により爆破**
 - **女性用ホステルの爆破**
 - **ワイン店の爆破 等**
- ⇒ **CD 店・ビデオ店・女子学校等**が標的となることが多い。これは、タリバーン等のイスラム原理主義テロ組織が欧米的風俗の氾濫源として **CD 店・ビデオ店**をとらえていること、更に、イスラム教徒の女子については教育は不要との認識があるためである。

② イラク

- **教会・修道院**
- **スクールバスに発砲**
- **ミサを終えたカトリック教会の大司教を教会付近で拉致**
- **病院の霊安室前で自動車爆弾が爆発 等**

③ アフガニスタン

- NGO 職員襲撃殺害
- ケシ畑の除去作業を行っていた警察の麻薬対策部隊への襲撃
- 結婚式の一行が乗ったバスの爆破
- NPO であるサーブ・アフガニスタン (SERVE Afghanistan) のメンバーである英国人女性が仕事に向かう途中、バイクに乗った 2 人組の男に銃撃され死亡
- NGO で教育分野の援助活動を行っているフランス人男性誘拐 等
- ⇒ NGO・NGO 関連施設・関係者が標的となることが相対的に多いのが特徴である。

④インド

- 市場で人力車に仕掛けられた爆弾が爆発
- 病院建物入口で爆発
- 列車内で不審なスーツケースが見つかったとの噂が立ちパニックになった乗客十数人が走行する列車から飛び降り負傷
- グジャラート (Gujarat) 州スーラト (Surat) 市内各所で爆弾 22 個 (ダイヤモンド研磨の世界的中心地として知られるスーラトで商店等軒並み営業を中止。爆弾の多くはダイヤモンド関連の商店や工場が集中するバラチャ地区に置かれていた)
- 映画館での爆破未遂 等

⑤その他

- スリランカ：傷病兵のバス・道路分離帯の花壇に仕掛けられた爆弾が爆発・武装グループが NGO 運営診療所を襲撃
- イエメン：観光客の誘拐 (ベルギー人・日本人)
- ソマリア：NPO である国境なき医師団 (MSF : Médecins Sans Frontières) への各種テロ・武装グループが飛行場を襲撃し離陸しようとしていた NPO の飢餓に対する行動 (Action Against Hunger) の関係者 4 人とパイロット 2 人を拉致
- フィリピン：ミンダナオ島ジェネラルサントス (General Santos) 市のマグロ缶詰工場の爆破・ミンダナオ島イリガン (Iligan) 市の商業施設 2 軒の爆破・イスラム過激派が民家 16 棟・診療所・デイケアセンター・政府建物に放火
- シリア：シーア (Shia) 派イスラム原理主義テロ組織であるヒズボッラー (Hezbollah) の有力指導者イマド・ムグニヤ (Imad Mughniyah) 氏爆死
- ギリシャ：人材雇用組織 (Greek Manpower Employment Organization) 事務所前に火炎瓶 (放火)・フィアット・アルファ・ロメオの販売店破壊 (極左組織)・サウジアラビア大使館車両爆破 (2 件)・トルコ大使館車両爆破・ボスニア・ヘルツェゴビナ大使館車両爆破
- 米国：ユダヤ人コミュニティセンターに発火物投擲・ユダヤ人協会職員の自宅に火炎瓶投擲
- アイルランド：中絶クリニックに危険物送致
- 中国：オーストラリア人観光客 10 人と通訳が乗った観光バスを乗っ取り・トイレでガソリンに火を付け墜落 (未遂)・バーで手製爆弾が爆発
- イスラエル：ユダヤ教神学校に男が侵入し自動小銃を乱射

- ネパール：モスクで爆弾爆発
- トルコ：ジユムフリエツト新聞社（Cumhuriyet Gazetesi）建物への火炎瓶投擲（同新聞社は世俗主義を掲げ、現与党公正発展党を強く批判していた）・マクドナルド店前に不審物放置
- カナダ：市交通局の職員が路面電車と貨物路線近くに爆発物
- タイ：学校前に仕掛けられていた爆弾が爆発
- インドネシア：スラウェシ（Sulawesi）のショッピングセンターでビニール袋に入れた爆弾発見（ラマダン（イスラム断食月）明けを狙ったもの：スラウェシではキリスト教徒とイスラム教徒の抗争が続いており、2000 年以降これまでに死者は数千人に達する）
- メキシコ：米国ヒューストン（Houston）の拠点がある警備会社 ASI Global LLC 所属の誘拐対策のコンサルタント（米国人）誘拐
- スウェーデン：マルメ（Malmö）市でモスク地下室の使用禁止に反対する若者が車両に放火し手製爆弾や石を警察署に投擲（この地下室はイスラムセンターとして使われていた） 等

⑥ エネルギー・社会インフラ関連

従来から、テロ組織の標的として主流を占めているエネルギー・インフラ等に対するテロとしては、主に下記のようなものがある。特に、パキスタン・ロシア・イラク・トルコ・コロンビアにおいては、ガス・石油のパイプラインを狙ったテロが多いのが特徴である。

- パキスタン
 - 送電線
 - ガス・パイプライン
 - 石油パイプライン 等
- ロシア
 - ガス・パイプライン
 - 石油タンク 等
- イラク
 - 発電所
 - 石油パイプライン 等
- トルコ
 - 石油パイプライン
 - ガス・パイプライン 等
- コロンビア
 - 石油パイプライン 等
- フィリピン
 - 発電所
 - 送電線
 - 電話中継施設 等

- ミャンマー
 - 発電所
 - 電話中継施設
 - 送電線 等
- タイ
 - 送電線
 - 携帯電話中継装置 等
- スペイン
 - 通信施設横 等
- ナイジェリア
 - 石油関連施設 等
- イエメン
 - 石油パイプライン 等
- インド
 - 携帯電話中継塔 等

6. 発生地

既述の通り、大規模テロ事件は地域的に偏る傾向が強いが、小規模テロ事件も含めた場合には、テロが全世界的に広がる傾向が顕著である。2008 年にも、これまでにあまりテロの発生地・発生形態が見られなかったテロ事件も発生している。

- アイスランド：環境保護団体によるテロ
- ブータン：ブータン南部 **Sarpang** で森林監督官の乗ったトラクターが通りかかったところ道路脇に仕掛けられた簡易爆弾が爆発
- ハンガリー：区長に白い粉を送致
- イラン：シーラーズ（**Shirāz**）の宗教施設で地元の宗教指導者が演説中に爆弾爆発（13 人死亡・200 人以上負傷）
- シリア：ダマスカス（**Damascus**）南部で治安当局の施設付近で自動車爆弾が爆発（一般市民 17 人死亡・14 人負傷：約 200kg の爆発物）
- エチオピア：エチオピア東部ソマリ（**Somali**）州ジジガ（**Jijiga**）のホテルで爆発物が爆発（ソマリ州オガデン（**Ogaden**）地方の独立を目指す反政府組織であるオガデン民族解放戦線（**ONLF : Ogaden National Liberation Front**）の犯行）
- オーストラリア：シドニー（**Sydney**）のカラオケ店に火炎瓶が投げ込まれ店にいた約 40 人が避難
- クロアチア：北西部のコンサートホールで爆発（12 月 20 日、21 日に同コンサートホールで親ナチ派として物議を醸している歌手 **Marko Perkovic 'Thompson'** のコンサートが予定されていた）
- ドイツ：南部 **Passau** 市近くで、ババリア州のネオナチ取締りを指揮する警察署長 **Alois**

Mannichl 氏が自宅の玄関で男に左胸を刺され重傷

- フランス：パリ中心部にあるデパートであるプラントン（マガザン・デュ・プラントン：Magasins du Printemps）内の男性用トイレ等でダイナマイトとみられる爆発物 5 個発見（2009 年 2 月までにアフガニスタンから仏軍が撤退しなければ次回は警告なしで爆破するとのアフガニスタン革命戦線（Afghan Revolutionary Front）を名乗る組織のメッセージが置かれていた）
- バハレーン：バハレーン治安当局はシーア派の儀式を狙った爆弾テロを計画していた疑いで 15 人を逮捕したと発表
- チリ：テムコ（Temuco）南部の大学近くのスーパー前で音響爆弾 2 個が爆発（Rebellious Youth and Insurrectional Rodrigo Cisternas の名前で爆破予告が地元ラジオ局に届いていた。Rodrigo Cisternas は 2007 年に死亡した森林労働者の名前）

7. その他

上記を含め、2008 年を含む昨今のテロ動向としては、下記のようなテロ傾向の特徴を見ることが出来る。なお、下記のうち、①動物愛護・環境保護・反グローバリズムに基づいた過激な抗議活動・テロ、②海賊行為、③欧州・東欧・ロシア等におけるネオナチ・極右勢力等による外国人襲撃等のテロについては、近年、特に活発化している状況である。

- **動物愛護・環境保護・反グローバリズム**に基づいた過激な抗議活動・テロの頻発
- **海賊行為**の大幅増（ソマリア・ナイジェリア等）
- 欧州・東欧・ロシア等における**ネオナチ・極右勢力等**による外国人襲撃
- NPO・NGO に対するテロ（アフガニスタン・ソマリア等）
- アフガニスタン・パキスタン：物資輸送用トラック等へのテロ
- ナイジェリア：石油関連施設へのテロの頻発
- アルジェリア：イスラム・マグレブ諸国の Al-Qaida（AQIM：Al-Qaida Organization in the Islamic Maghreb）によるテロの活発化
- 局地的なテロ頻発：南オセチア紛争に伴うロシア南部・ダゲスタン共和国・グルジア等でのテロ・冬季オリンピック開催予定のソチにおけるテロ 等
- チリ：銀行等へのテロ（無政府主義者等によるテロ）
- ペルー：センドル・ルミノソ（Sendero Luminoso：左翼系テロ組織）の復活
- メキシコ：麻薬マフィアに関連するテロの頻発
- スペイン：従来からのバスク祖国と自由（ETA：Euskadi Ta Askatasuna）等のバスク民族主義テロ組織によるテロ ⇒ フランス側バスク地方でも発生
- ギリシャ：極左組織等による銀行・企業・イスラム諸国大使館等へのテロ
- 中国：オリンピック前のテロ頻発・暴動
- 日本に対するテロ（邦人が標的又は被害を受けたテロ）の頻発：
 - 2008 年 3 月 15 日：パキスタン：イスラマバード（Islamabad）中心部にある高級イタリア料理店での爆破テロ（邦人 2 人負傷）

- 2008 年 5 月 7 日：イエメン：マアリブ（Ma'rib）県での日本人女性 2 人の誘拐事件（2 人とも無事解放）
- 2008 年 8 月 26 日：アフガニスタン：日本の NGO 職員誘拐殺人事件（邦人職員 1 人死亡）
- 2008 年 9 月 22 日：エチオピア：NPO の所属する邦人医師誘拐事件（その後無事解放）
- ミャンマー：カレン族等の民族主義武装グループ（カレン民族同盟（KNU：Karen National Union）・カレン民族解放軍（KNLA：Karen National Liberation Army）等）によるテロ事件の頻発
- タイ：南部県を中心としたイスラム系組織によるテロ及び政局の流動化に伴う反政府勢力等に対するテロ 等
- ブルガリア：犯罪組織等によるテロの頻発
- フィリピン：ホテル等に対するテロの頻発（特に 2008 年 8 月の政府とモロ・イスラム解放戦線（MILF：Moro Islamic Liberation Front）との和平交渉頓挫以降）
- エチオピア：エリトリアとの緊張関係・ソマリア情勢の流動化・国内民族主義勢力等に伴うテロの頻発
- インドネシア：スラウェシ（Sulawesi）島を中心とした宗教対立（キリスト教・イスラム教）・パプア州（Papua Barat）での民族主義運動等に伴うテロ 等
- スリランカ：LTTE による政府関係施設・政府要人を標的としたテロ 等
- スーダン：ダフル（Darfur）紛争・石油利権に関連するテロ 等
- ネパール：マオイスト（Maoist）以外の組織によるテロ 等
- 最近のテロ動向の特徴としては、**政治的・宗教的行事等にあわせたテロ**を行うことで、政権交代・宗教的対立を助長するようなテロが頻発していることが挙げられる。また、国際的な政治的行事にあわせてテロを実行することで、国際的注目を集めることで、テロ実行能力を誇示し、更に国際情勢にも影響を与えることを意識したテロも大幅に増加している。2008 年に発生したものとしては、下記のようなものがある。
 - 2008 年 2 月 4 日：独立記念日（英国からの独立 60 周年）：コロンボ（Colombo）等で自爆テロ事件を含め 5 件のテロ事件
 - 2008 年 3 月 6 日：英国・ロンドンの在英日本大使館にシーシェパード（SSCS：Sea Shepherd Conservation Society）が過激な抗議活動（3 月 6 日に国際捕鯨委員会（IWC：International Whaling Commission）の中間会合がロンドンで開催されていた）
 - 2008 年 4 月 6 日：スリランカ西部州（Western Province）ガンパハ県（Gampaha District）Weliweriya の道路上でのシンハラ（Sinhala）及びタミル（Tamil）の新年を祝うマラソン大会の出発式会場を狙った自爆テロ事件
 - 2008 年 4 月 7 日：ネパール：制憲議会選挙（4 月 10 日）・選挙運動最終日（4 月 7 日）：3 月末から 4 月上旬にかけてネパール各地で爆弾テロが頻発
 - 2008 年 4 月 27 日：アフガニスタンのカブール（Kabul）における戦勝記念日式典に対する襲撃事件

- 2008 年 5 月 26 日：ネパール：5 月 28 日に王制廃止を正式決定する制憲議会初会合の会場での連続爆破テロ事件
- 2008 年 6 月 4 日：アルジェリア・アルジェ（Algiers）で 6 月 5～6 日に地中海周辺の欧州・北アフリカ諸国外相会議開催：アルジェ軍の兵舎入口での自爆テロ事件
- 2008 年 7 月 4 日：ベラルーシ・ミンスク（Minsk）で独立記念日を祝う野外コンサートが行われていた会場での爆破テロ事件
- 2008 年 7 月 6 日：パキスタン・イスラマバード（Islamabad）のラルマスジッド・モスク（Lal Masjid Mosque : Red Mosque）占拠事件（2007 年 7 月 3 日から 7 月 10 日）の 1 周年の集会での自爆テロ事件
- 2008 年 8 月：北京オリンピック前後におけるテロ事件
- 2008 年 8 月 18 日：アフガニスタン：8 月 19 日の独立記念日前：米軍基地等における自爆テロ事件
- 2008 年 9 月 6 日：パキスタン大統領選挙当日：ペシャワル郊外で幹線道路にある検問所に爆弾を積んだ車が突っ込む自爆テロ
- 2008 年 9 月 28 日：イラク：ラマダン期間中：バグダッド等での自爆テロ事件
- 2008 年 10 月 30 日：インド・アッサム州同時爆破テロ事件（81 人死亡・470 人負傷）（ヒンズー教最大の祭の一つであるディワリ（Diwali）最終日の祝日）
- 2008 年 12 月 16 日：バハレーンの 12 月 16 日の独立記念日・12 月 17 日の国王就任 37 周年の祝賀行事：バハレーン治安当局はシーア派の儀式を狙った爆弾テロを計画していた疑いで 15 人を逮捕したと発表

以 上

（第 3 部に続く）

本編は、弊社が契約企業に対し不定期で情報提供している「海外安全レポート」として 2009 年 2 月 3 日作成「最近の国際テロ動向と今後の展開～2008 年テロ動向分析を基にした今後の国際テロ動向予測（第 2 部）」から抜粋したものである。

※ 「海外安全レポート」は弊社の「海外危機管理情報提供サービス」に基づき、不定期に提供しているもので、2008 年の実績で約 46 編のレポートを提供している。

参照 URL：<http://www.tokiorisk.co.jp/consulting/overseas/member.html>

また、本編は、財団法人 日本国際問題研究所（JIIA）の「所外活動」にも掲載されている。

参考 URL：http://www2.jiia.or.jp/extpub/index_extpub.php